

沖縄観光に関する県民意識の調査 及び分析委託業務 報告書

【概要版】



令和8年3月
沖縄県文化観光スポーツ部

調査概要

(1) 調査の目的

沖縄観光に関する県民の意識やニーズ及び行政に対する要望等を把握するとともに客観的かつ合理的な分析を行い、実効性の高い観光施策の企画・立案・評価及び沖縄観光ブランドの構築に資することを目的とする。

(2) 調査項目

- ①観光客との接点
- ②沖縄観光に対する意識
- ③観光産業に対する意識
- ④観光施策の重要度・達成度
- ⑤観光客来訪による影響
- ⑥宿泊税の導入に対する意識
- ⑦持続可能な観光に対する意識
- ⑧将来の沖縄観光のあり方や観光行政に関する意見
- ⑨回答者の年齢、性別、職業などの基本属性

(3) 調査対象 県内に居住する満15歳以上、満75歳未満の男女

(4) 調査方法 郵送調査
(※調査対象世帯の郵便受けに調査票を投函し、郵送又はWEB経由で回収)

(5) 調査期間 令和8年1月22日(木)～令和8年3月1日(日)

(6) 回収結果 有効回収数 2,122人

地域別回収数 北部167 中部858 那覇市445
南部381 宮古137 八重山134

(参考) 前回調査
調査期間 令和7年1月23日(木)～令和7年2月23日(日)
有効回収数 2,164人

1.観光客との接点

- 観光客を「よく見かける」割合は、日本人54.0%、外国人51.5%と日本人が外国人を上回る。**前回調査と比べると、外国人観光客を見かける頻度が増加している。**
- 観光客と接する機会は、「日常業務の一環で接している」が17.7%、「日常生活におけるコミュニケーションで接している」が20.8%、「**接する機会はない**」が**59.9%**であった。

図 観光客を見かける頻度

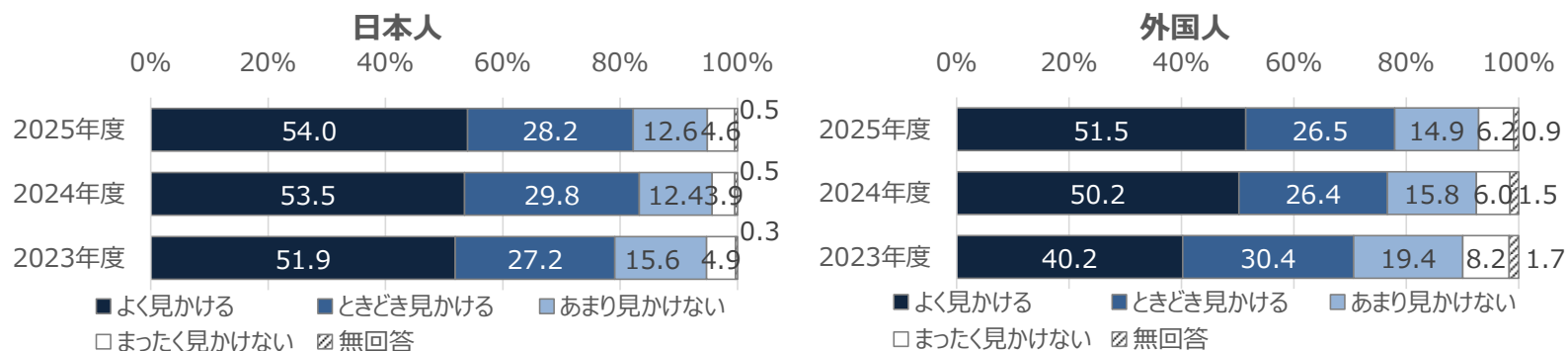
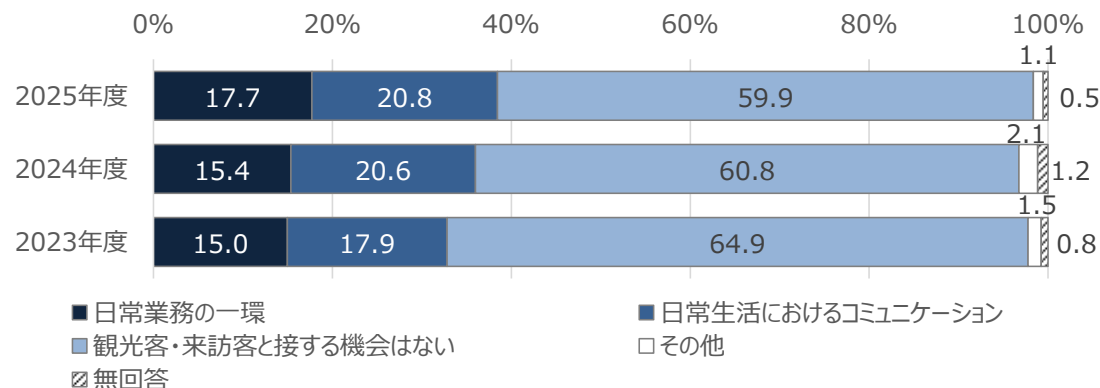


図 観光客と接する機会



2. 沖縄観光に対する意識

(1) 日本人観光客の来訪に対する考え

- 日本人観光客の来訪に関して、沖縄県全体としては「増えてほしい層（もっと増えるといふ＋少し増えるといふ）」が70.0%を占めるのに対し、自分が居住する市町村については「増えてほしい層」は55.1%に留まる。沖縄県全体としては増えてほしいが、居住市町村は今のままでよい、というギャップがみられた。
- 前回調査と比べると、**居住市町村、沖縄県ともに「増えてほしい層」がやや減少した。**

図 日本人観光客の来訪に対する考え

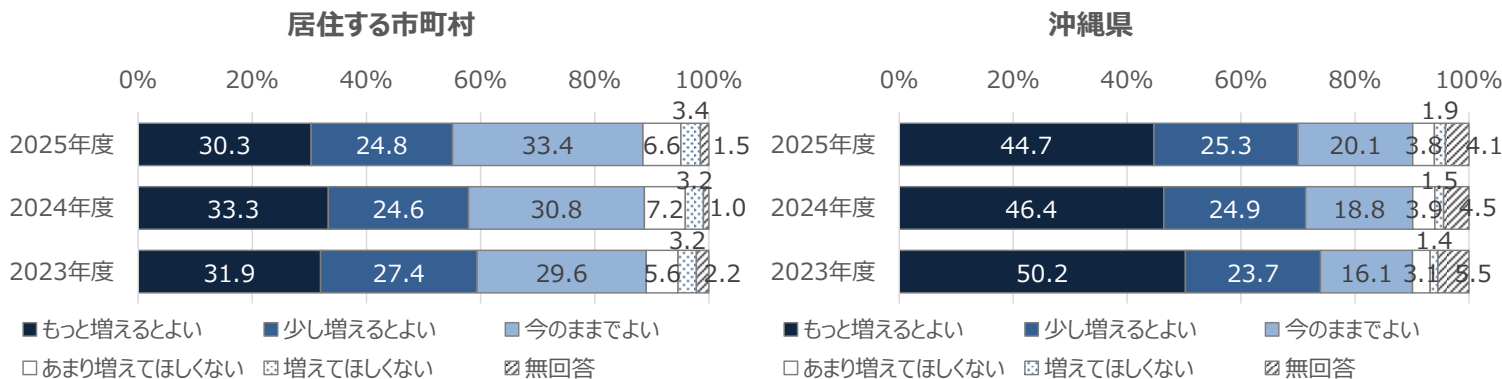
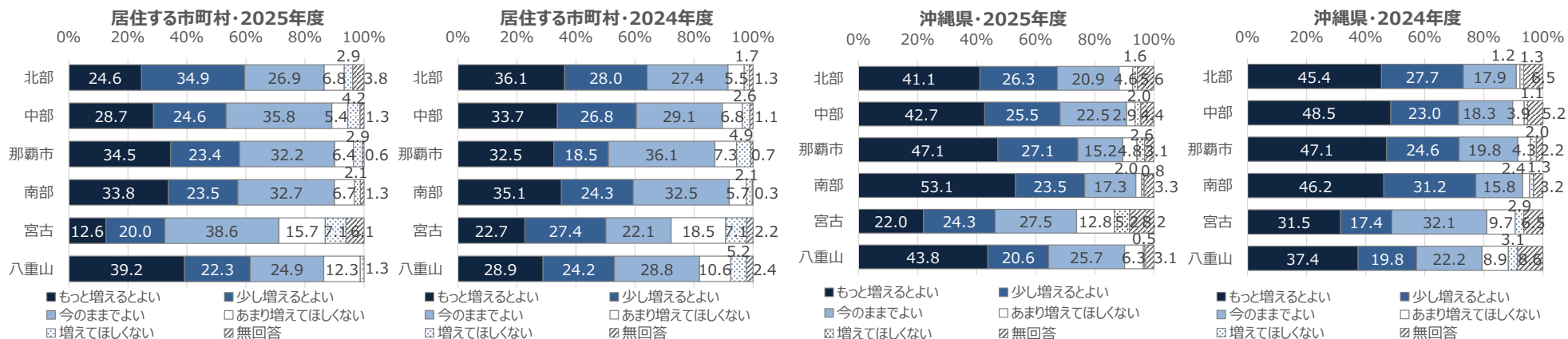


図 日本人観光客の来訪に対する考え（地域別）



2. 沖縄観光に対する意識 (2) 外国人観光客の来訪に対する考え

- 居住する市町村への外国人観光客の来訪に関しては、「増えてほしい層（もっと増えるとうい+少し増えるとうい）」38.2%、「増えてほしくない層（あまり増えてほしくない+増えてほしくない）」26.2%であった。沖縄県全体としては「増えてほしい層」が52.0%を占めた。日本人観光客同様、外国人観光客についても、沖縄県全体と居住市町村とではギャップがみられた。
- 前回調査と比べると、**沖縄県全体、居住市町村ともに「増えてほしい層」が減少**している。

図 外国人観光客の来訪に対する考え

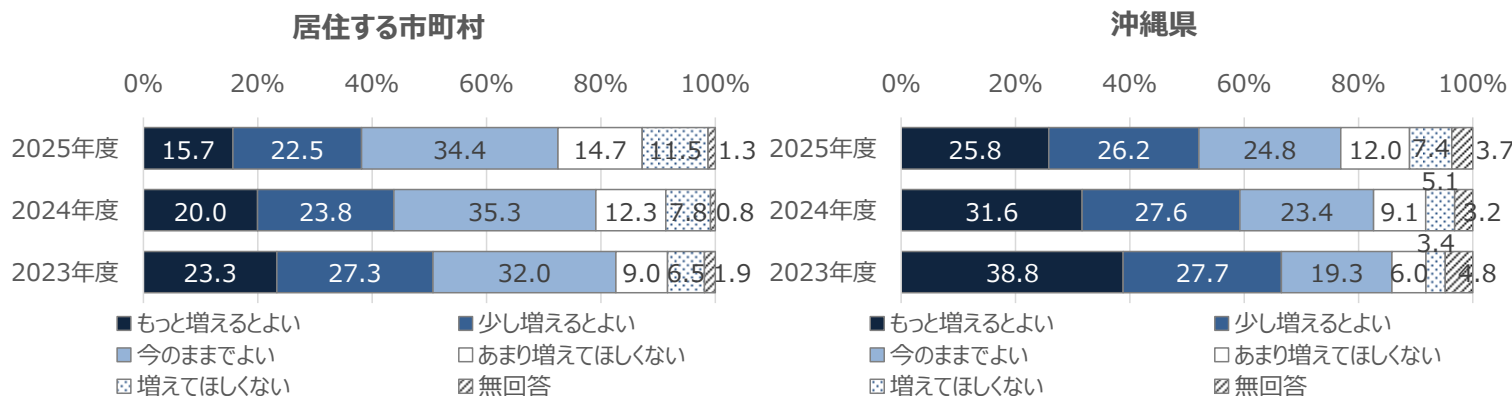
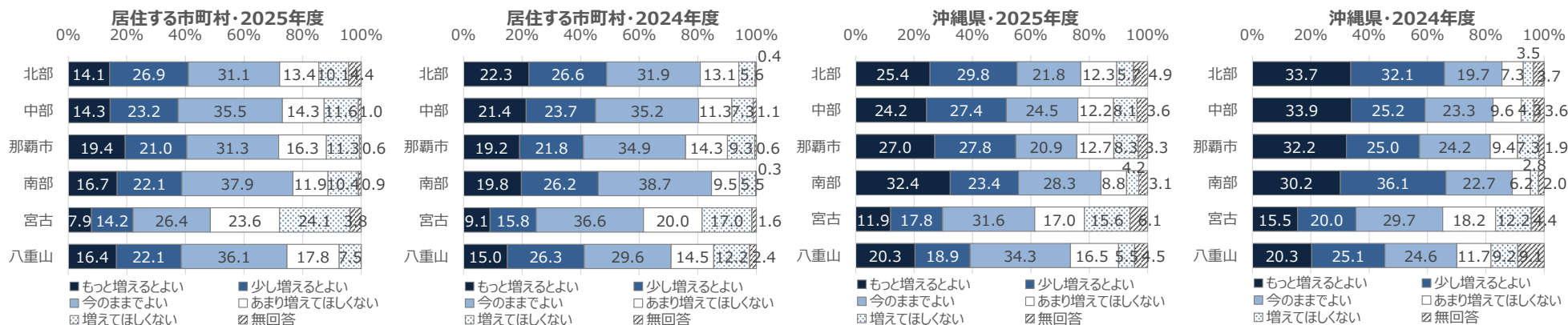


図 外国人観光客の来訪に対する考え（地域別）



2. 沖縄観光に対する意識 (3) 観光発展への期待

- 居住する市町村の観光の発展を期待する人の割合は「期待する派（とても思う+やや思う）」が54.1%を占め、「期待しない派（あまり思わない+まったく思わない）」の14.4%を大幅に上回った。沖縄県全体としては「期待する派」が73.7%を占めており、観光の発展への期待は大きい。
- 前回調査と比べると、**居住市町村、沖縄県ともに「期待する派」が減少**した。

図 観光がもっと盛んになるといいと思うか

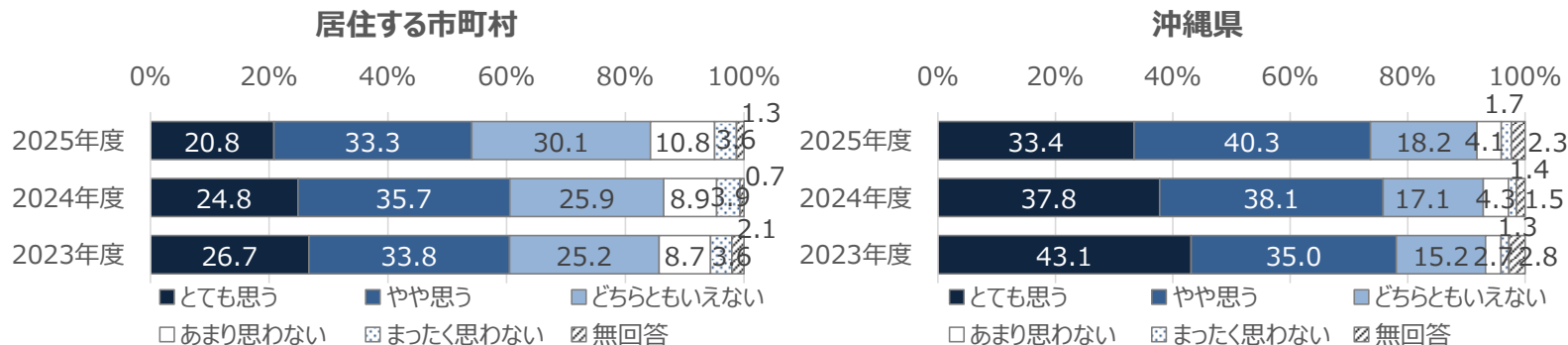
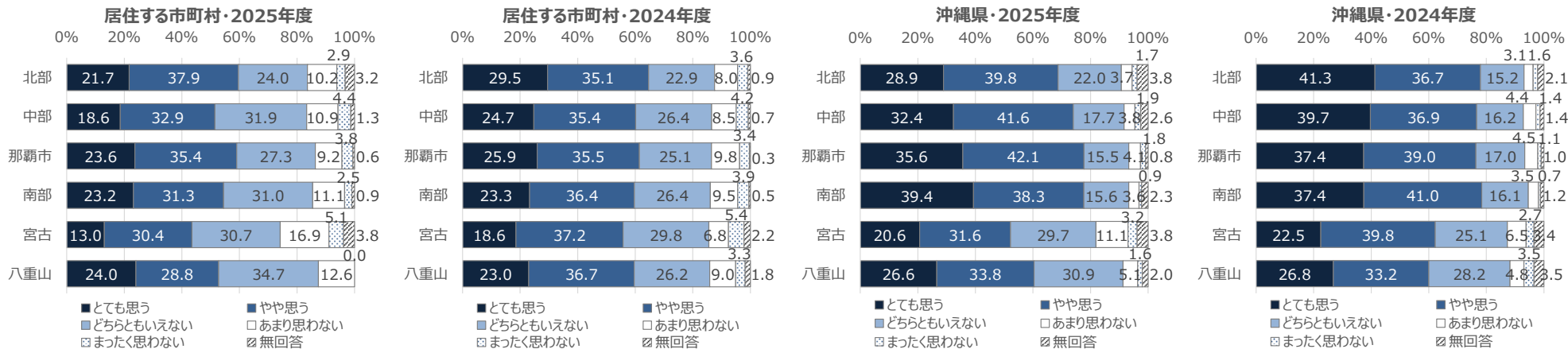


図 観光がもっと盛んになるといいと思うか（地域別）



2. 沖縄観光に対する意識

(4) 沖縄の発展における観光の重要性

- 沖縄の発展に観光が重要な役割を果たしていると思うか尋ねたところ、「とても思う」が54.2%と約半数を占めた。「やや思う」を加えると、87.3%の人が観光の重要性を評価している。「とても思う」に「やや思う」を加えた割合は、前回調査よりやや減少した。
- 観光の重要性について、その理由を尋ねたところ、観光推進が重要だと思う層（「とても思う」「やや思う」と回答）は、90.3%が「沖縄経済にとって重要な産業だから」を理由として挙げた。一方、観光推進が重要だと思わない層（「あまり思わない」「まったく思わない」と回答）は、72.4%が「観光客が増加することによって、観光諸問題が発生するから」を理由として挙げた。

図 沖縄の発展に観光が重要な役割を果たしていると思うか

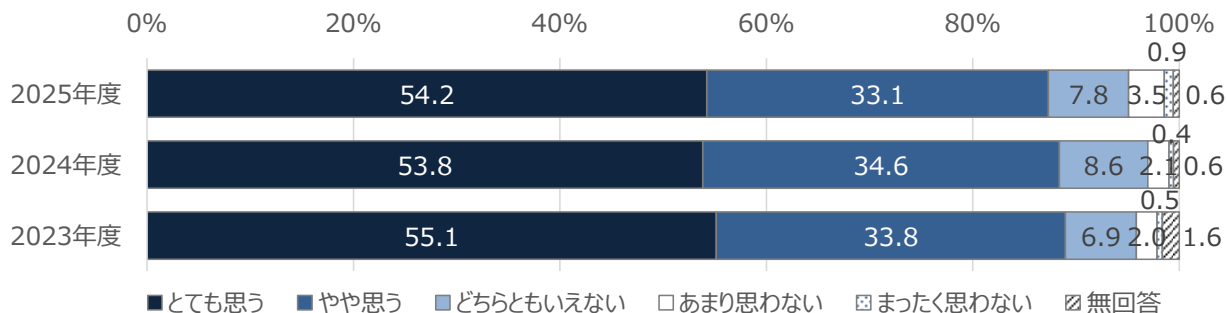
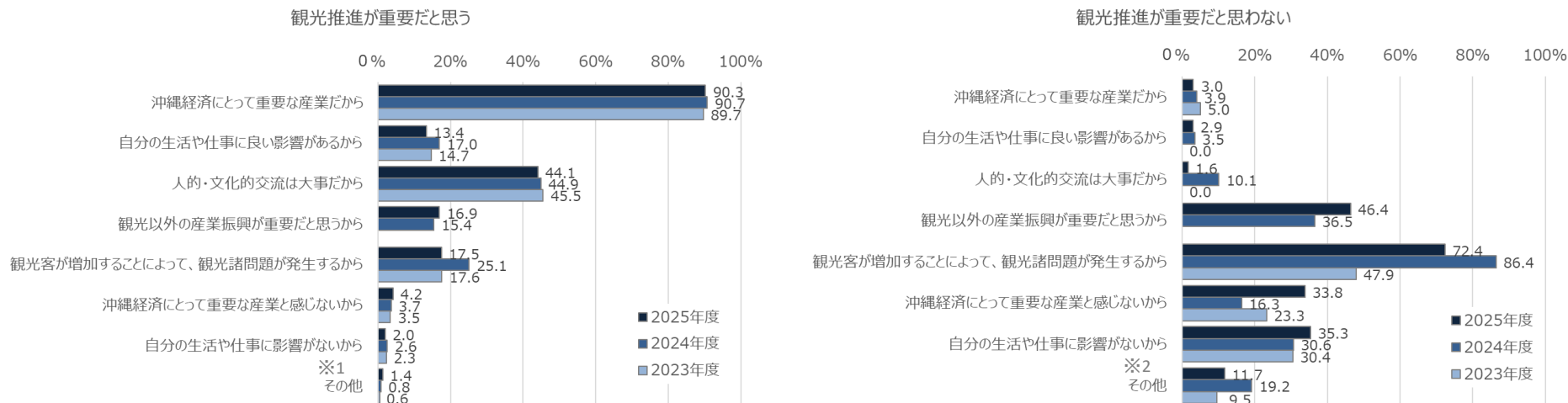


図 沖縄の発展における観光の重要性の理由

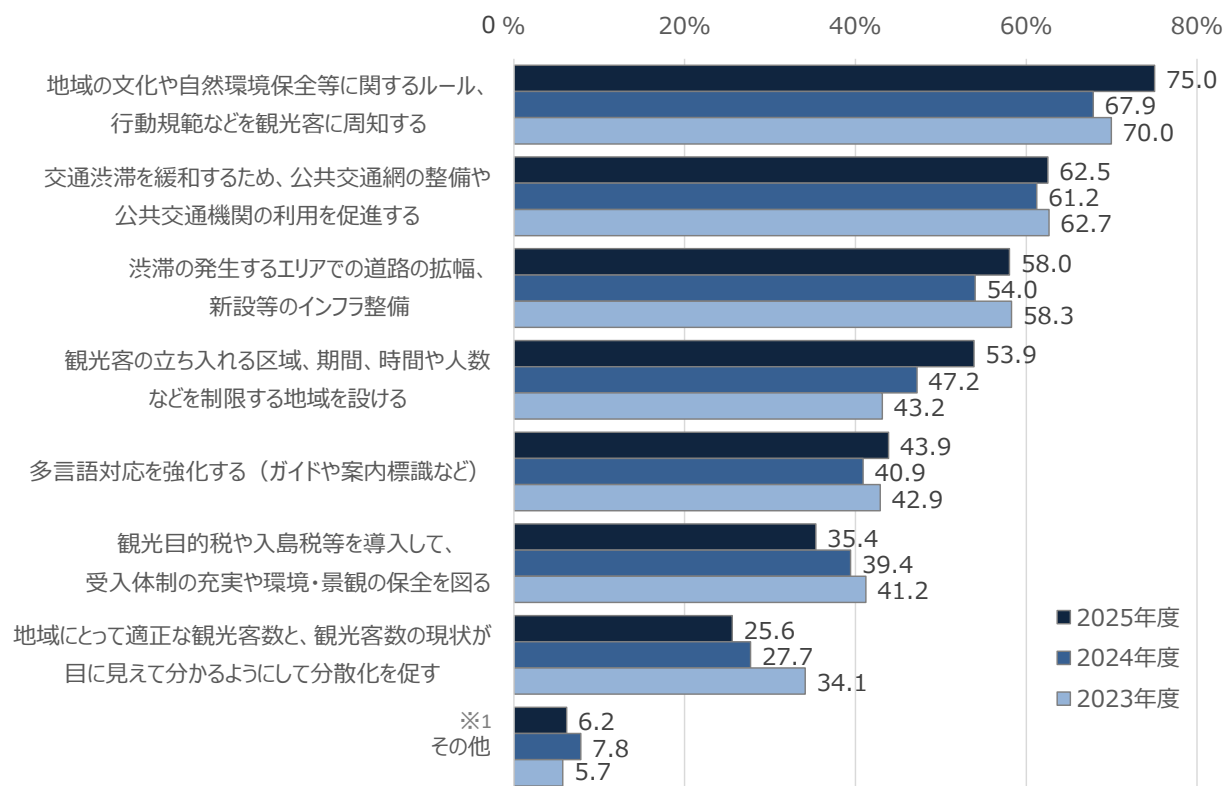


※1：「其他」の自由記述で挙げられた内容：沖縄には独特の雰囲気、カルチャーがあるから など ※2：「其他」の自由記述で挙げられた内容：県民の所得が増えない、県民への還元がないから など

2.沖縄観光に対する意識 (5)観光諸問題への対応

- 観光の重要性に関する理由について「観光客が増加することによって、観光諸問題が発生するから」と回答した人に、考えられる対策について尋ねたところ、「地域の文化や自然環境保全等に関するルール、行動規範などを観光客に周知する」が75.0%、「交通渋滞を緩和するため、公共交通網の整備や公共交通機関の利用を促進する」が62.5%、「渋滞の発生するエリアでの道路の拡幅、新設等のインフラ整備」が58.0%と多かった。

図 「観光諸問題」に関する対応



2. 沖縄観光に対する意識

(6) 観光の発展と生活の豊かさ・住民の幸福とのつながり

- 観光が発展すると自分の生活も豊かになると思うかについては、「とても思う」「やや思う」を合わせた割合が54.2%であり、**半数以上の人**が**生活の豊かさにつながっていると認識**している。前回調査と比べると「とても思う」「やや思う」ともに減少した。
- 観光が発展する沖縄に居住することであなたは幸せを感じられると思うかについては、「とても思う」「やや思う」を合わせた割合は46.5%であり、**5割弱の人**が**幸せを感じられると認識**している。前回調査と比べると「とても思う」「やや思う」ともに減少した。

図 観光が発展するとあなたの生活も豊かになると思うか

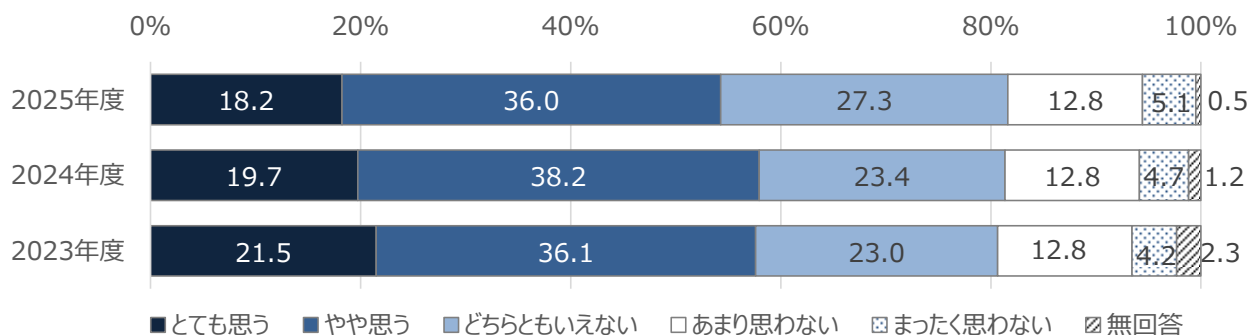
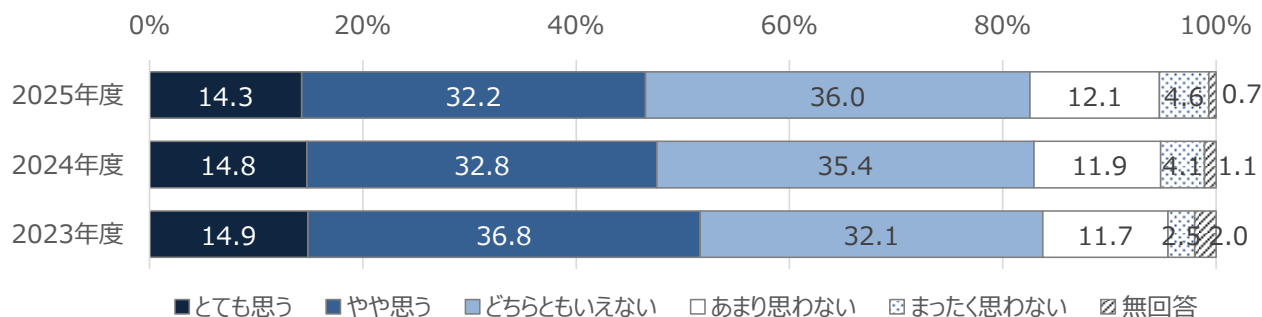


図 観光が発展する沖縄に居住することであなたは幸せを感じられるか



3.観光産業に対する意識

(1)観光産業への就業意向・就業推奨意向

- 未就業者に観光産業への就業意向について尋ねたところ、「働きたい層（働きたい+やや働きたい）」は17.7%となり、前回調査と比べて減少した。一方、「働きたくない層（働きたくない+あまり働きたくない）」は45.9%となり、前回調査と比べて増加した。
- 一方、未就業者の子どもがいる人に対し、観光産業への就業推奨意向について尋ねたところ、「働かせてみたい層（働かせてみたい+やや働かせてみたい）」が18.6%となり、前回調査よりやや減少した。一方、「働かせたくない層（あまり働かせたくない+働かせたくない）」は31.5%と前回調査からやや増加した。

図 観光産業への就業意向（未就業者のみ）

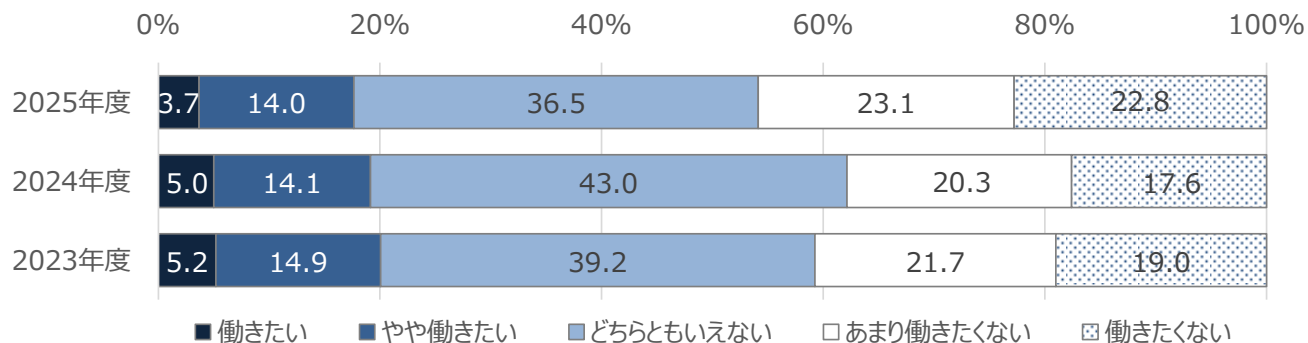
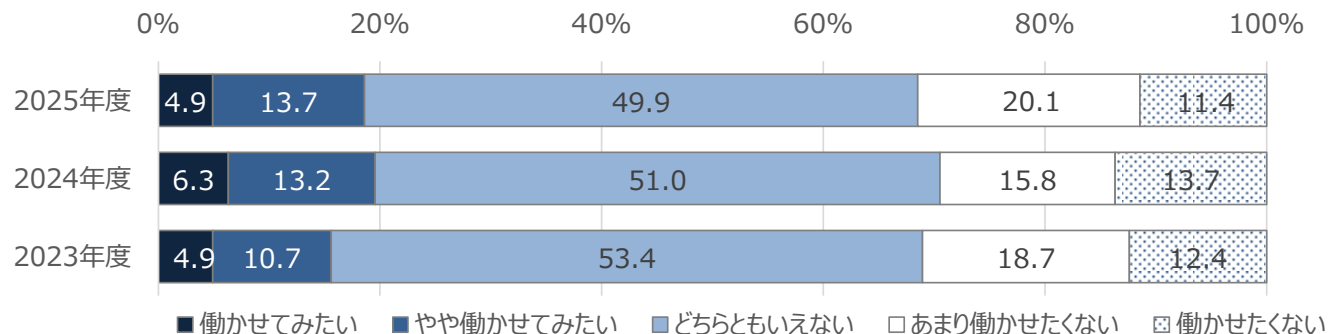


図 観光産業に対する就業推奨意向（子どもが未就業者のみ）

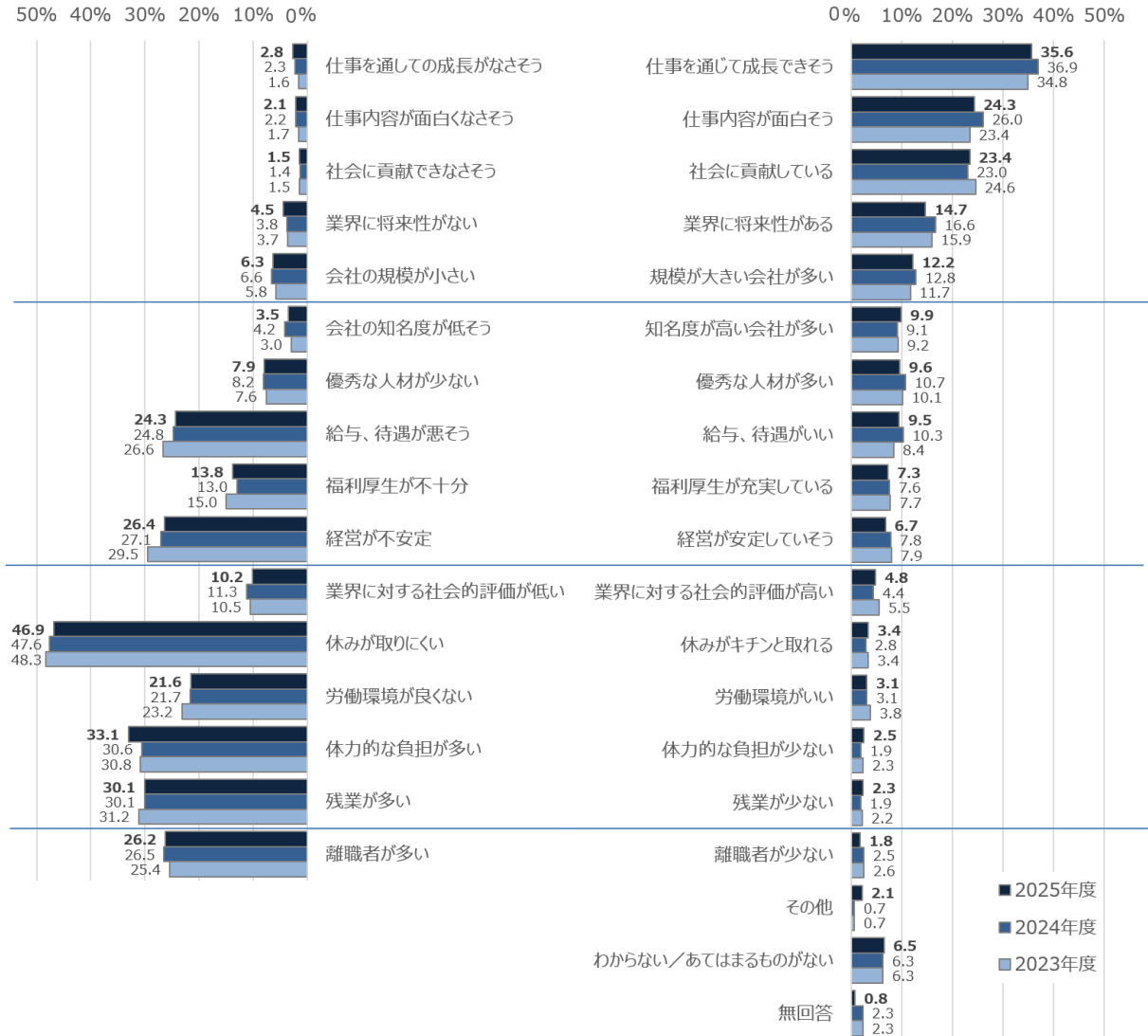


3.観光産業に対する意識

(2)観光産業のイメージ

図 観光産業のイメージ【複数回答】

- 観光産業のイメージとしては、「休みが取りにくい」が**46.9%**で**最多**となったが、近年は微減傾向にある。以下、マイナスのイメージでは「体力的な負担が多い」33.1%、「残業が多い」30.1%、「経営が不安定」26.4%と続く。
- プラスのイメージでは、「仕事を通じて成長できそう」35.6%、「仕事内容が面白そう」24.3%が多いが、いずれも前回調査と比べると減少している。
- 前回調査同様、仕事内容にはプラスのイメージを抱いているものの、勤務形態や職場環境への不安があらわれる結果となった。



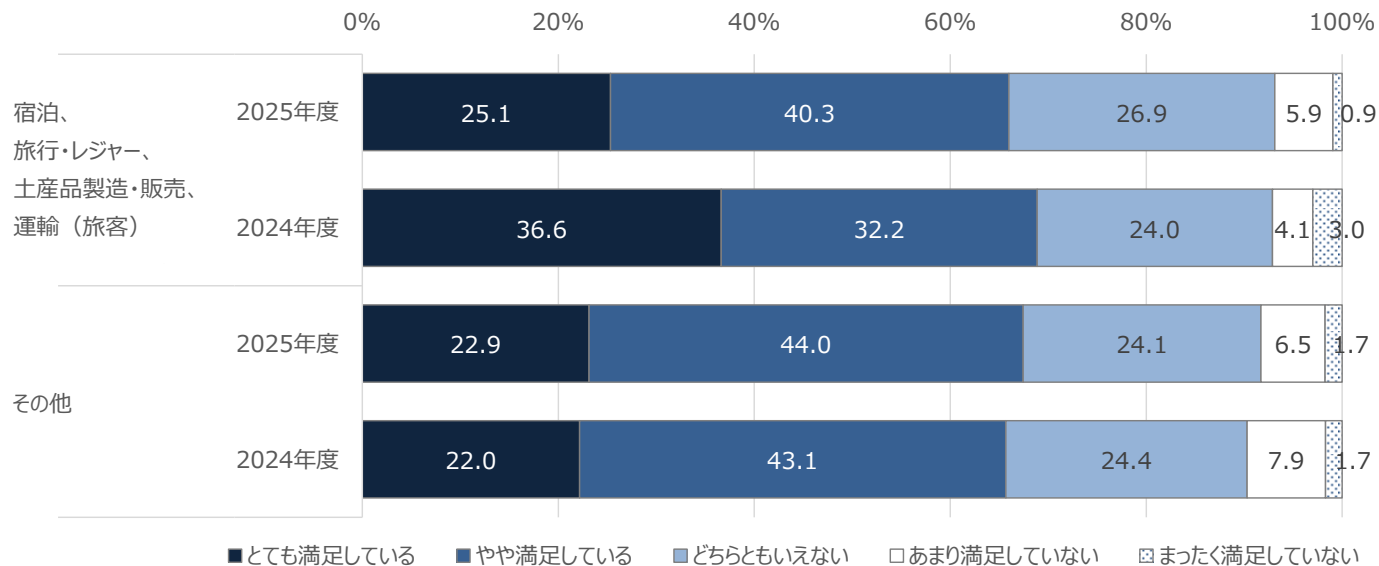
※1：「その他」の自由記述で挙げられた内容：県外資本が多い、英語など多言語で話す必要がある など

3.観光産業に対する意識

(3)観光産業従事者の職業満足度

- 観光産業従事者（宿泊、旅行・レジャー、土産品製造・販売、運輸（旅客））の職業に対する満足度は、「とても満足している」「やや満足している」を合わせると**65.4%**となった。
- 観光産業以外（その他）の産業従事者と比べると、観光産業従事者は「とても満足している」がやや高い。

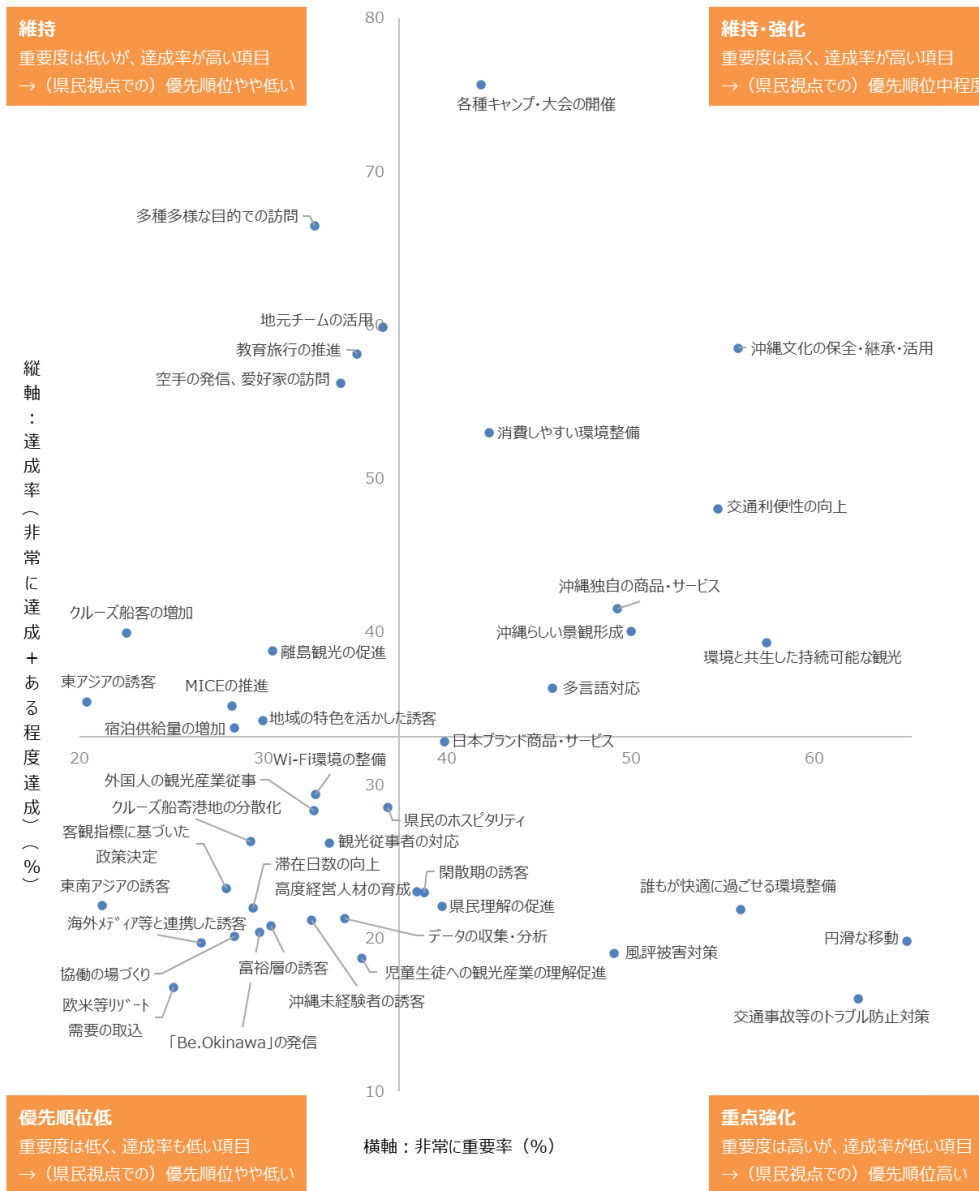
図 現在勤めている職業に対する満足度



4.観光施策の重要度・達成度

- 「各種キャンプ・大会の開催」「沖縄文化の保全・継承・活用」「消費しやすい環境整備」「交通利便性の向上」等は、県民にとって重要度・達成率ともに高い項目であることから、現状の沖縄観光の強みとして、維持・強化していく必要がある。
- 一方、「交通事故等のトラブル防止対策」「円滑な移動」「誰もが快適に過ごせる環境整備」「風評被害対策」等は、県民にとって重要度が高いにもかかわらず達成率が低位に留まることから、県民ニーズが高い施策であると考えられる。

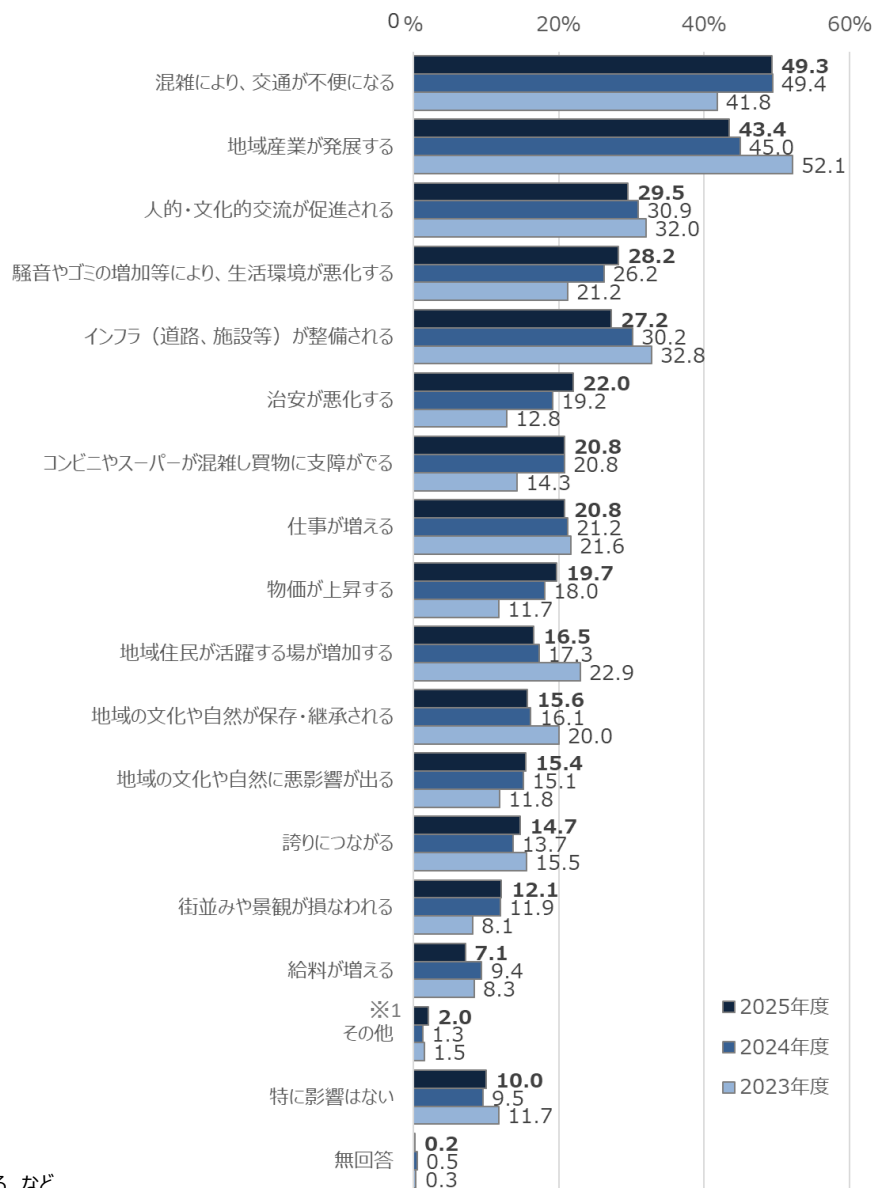
図 沖縄観光の各施策の重要度と達成度の関係性



5. 観光客来訪による影響

図 観光客が訪れることによる影響【複数回答】

- 観光客が訪れることによる影響としては、「混雑により、交通が不便になる」が49.3%で1位となった。以下、「地域産業が発展する」43.4%、「人的・文化的交流が促進される」29.5%、「騒音やゴミの増加等により、生活環境が悪化する」28.2%、「インフラ（道路、施設等）が整備される」27.2%と続く。**前回調査と比較するとネガティブな影響が増加している。**

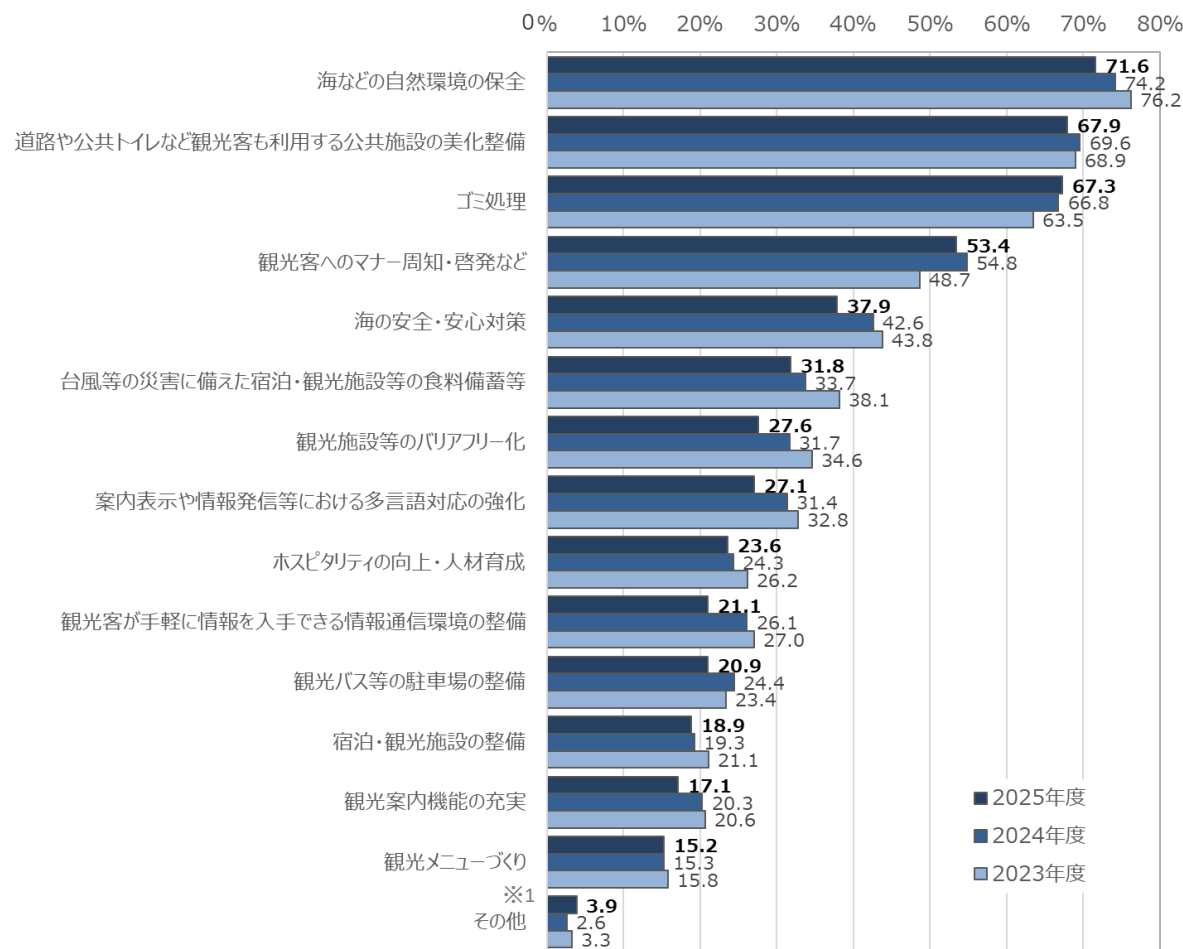


※1：「その他」の自由記述で挙げられた内容：レンタカーによる事故や悪質な運転が増える など

6. 宿泊税の導入に対する意識

- 宿泊税の活用方法としては前回調査に引き続き「海などの自然環境の保全」が71.6%と最も多かった。次いで「道路や公共トイレなど観光客も利用する公共施設の美化整備」67.9%、「ゴミ処理」67.3%と続く。**自然環境保全や環境美化への活用が多く望まれている。**

図 宿泊税を導入した場合の活用方法【複数回答】

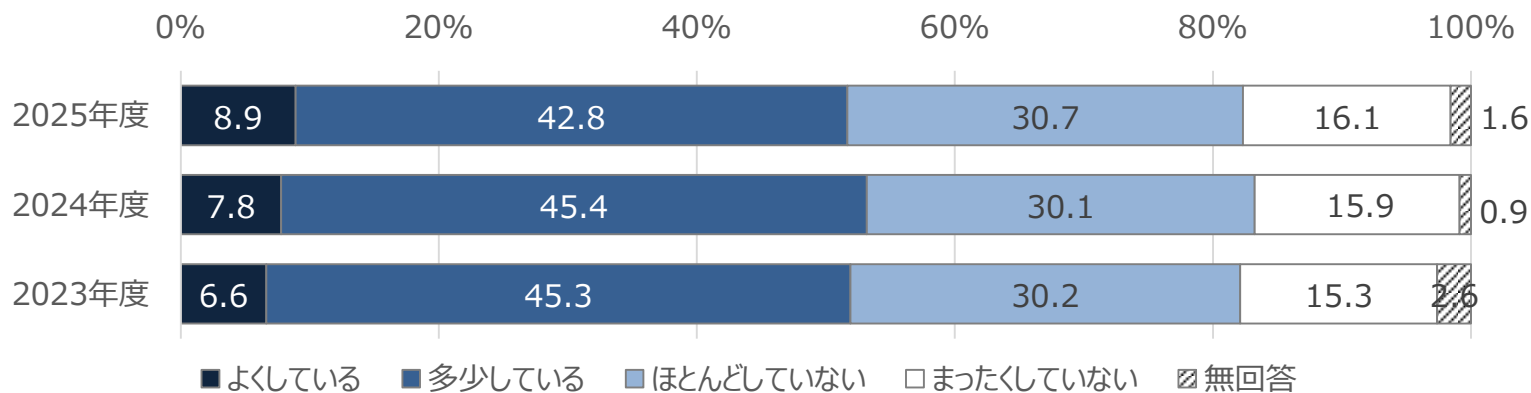


※1：2024年度までの調査票では、「観光税」について問う内容としていた。 ※2：「その他」の自由記述で挙げられた内容：モルールの延伸／交通渋滞対策／県民や観光業従事者への還元 など

7.持続可能な観光に対する意識 (1)持続可能な観光の推進に関わる活動

- 回答者自身の「持続可能な観光」の推進に関わるような活動については、「よくしている」「多少している」を合わせて51.7%が活動していると回答した。前回の調査からは1.5ポイントの減少となった。

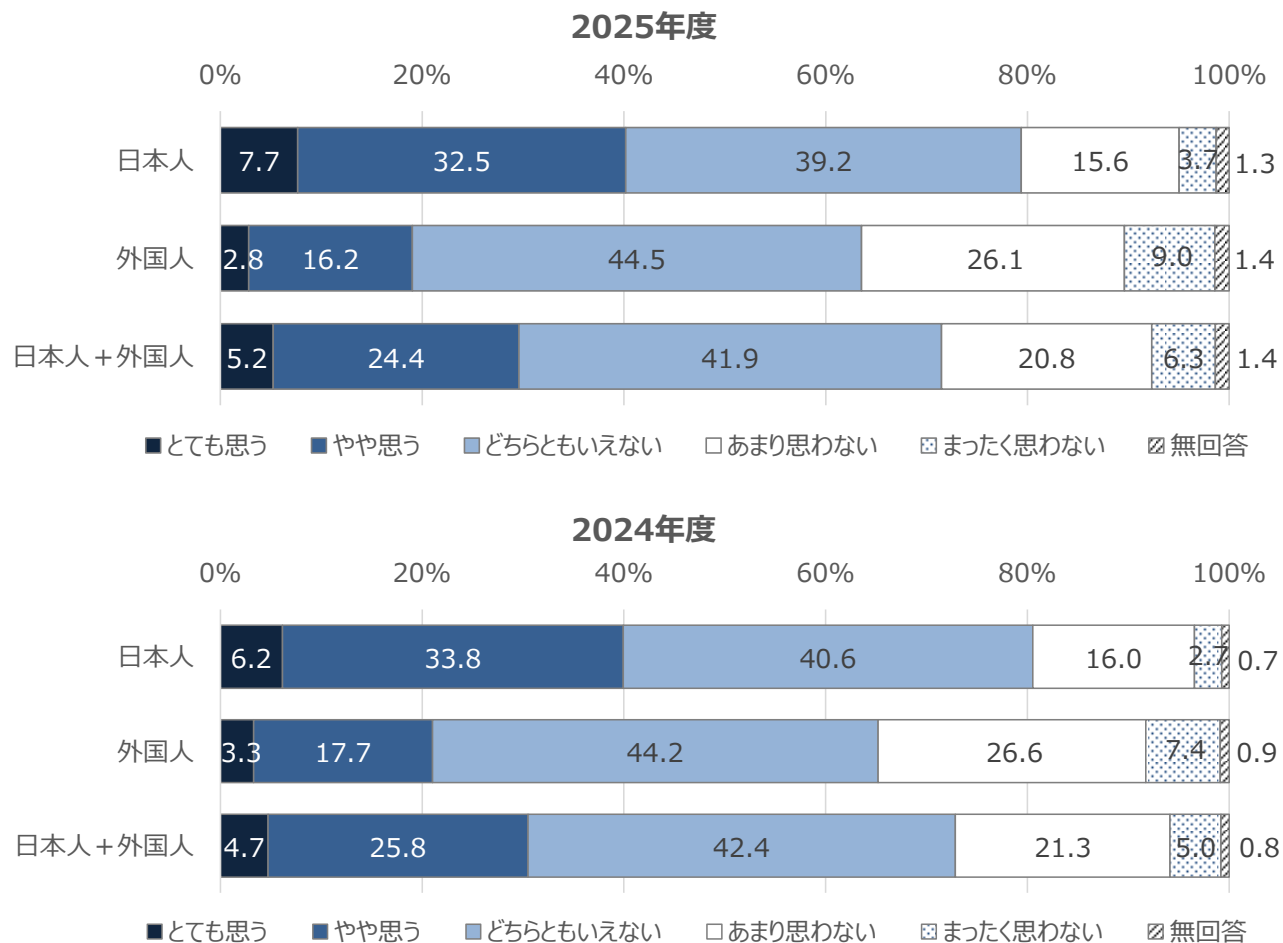
図 持続可能な観光の推進に関わるような活動をしているか



7.持続可能な観光に対する意識 (2)観光客に対する評価

- 沖縄県を訪れる日本人観光客と外国人観光客について、地域の人々の生活を尊重し、沖縄の自然や文化に敬意を有した旅行者としての行動ができていると思うか尋ねたところ、「とても思う」「やや思う」を合わせると、日本人に対しては**40.2%**、外国人に対しては**19.0%**が行動できていると評価している。

図 観光客は地域の人々の生活を尊重し、沖縄の自然や文化に敬意を有した旅行者としての行動ができているか

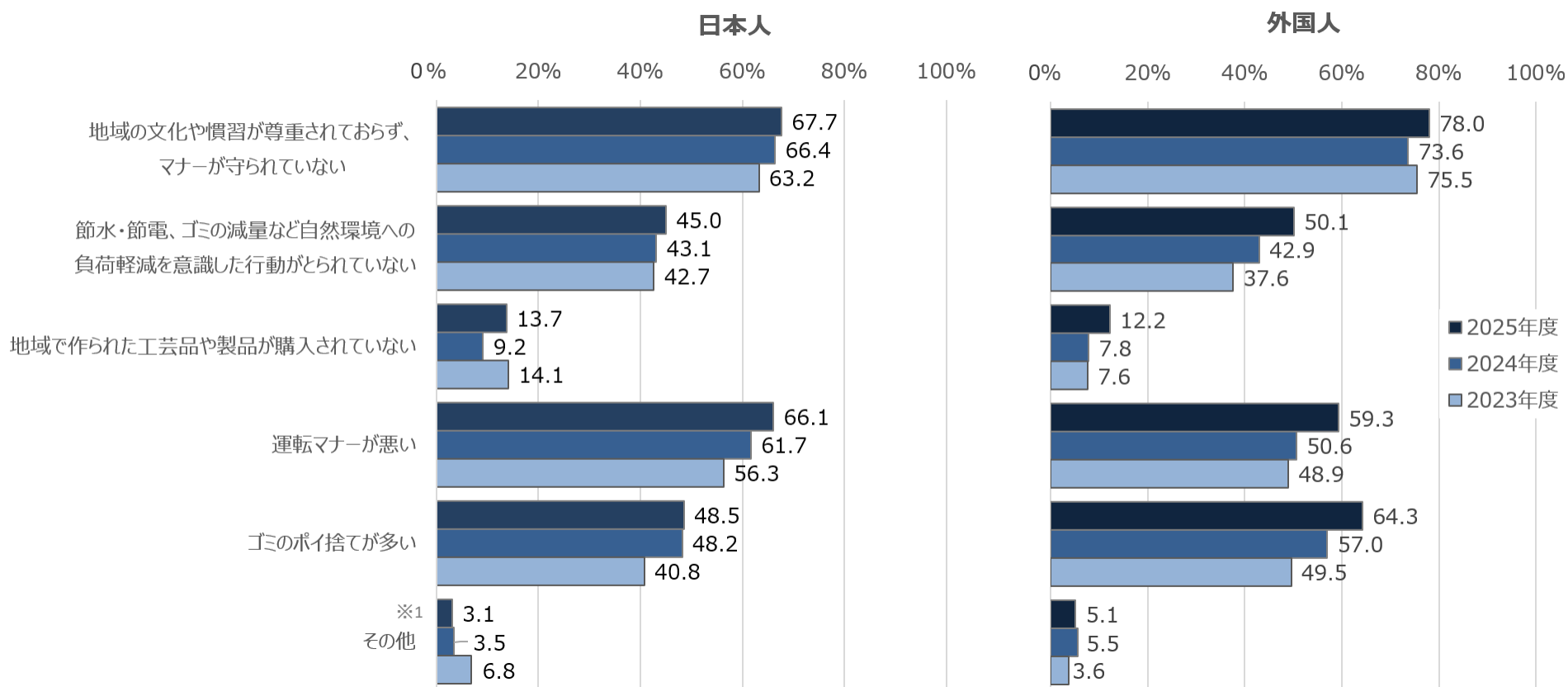


7.持続可能な観光に対する意識

(3)観光客に対する評価の理由

- 観光客の行動に対する評価が低い（「あまり思わない」「まったく思わない」と回答）人に対してはその理由も尋ねた。日本人、外国人いずれに対しても、「地域の文化や慣習が尊重されておらず、マナーが守られていない」が最も高い。次いで、日本人に対しては「運転マナーが悪い」が高く、外国人に対しては「ゴミのポイ捨てが多い」と「運転マナーが悪い」が高い。日本人、外国人いずれに対しても**多くの項目で前年より上昇**している。

図 （観光客の行動に対する評価が低い）理由としてあてはまるもの



※1：「その他」の自由記述で挙げられた内容
 日本人：歴史や文化に対する理解・敬意が無い など
 外国人：大声で話すなどの騒音問題／列への割り込み／トイレの使い方が悪い など

8.回答者の地域、年齢、性別、職業などの基本属性

図 地域別構成比 (%)

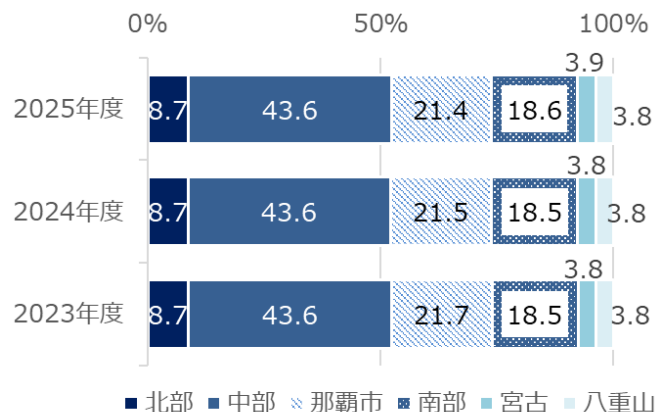


図 家族構成比 (%)

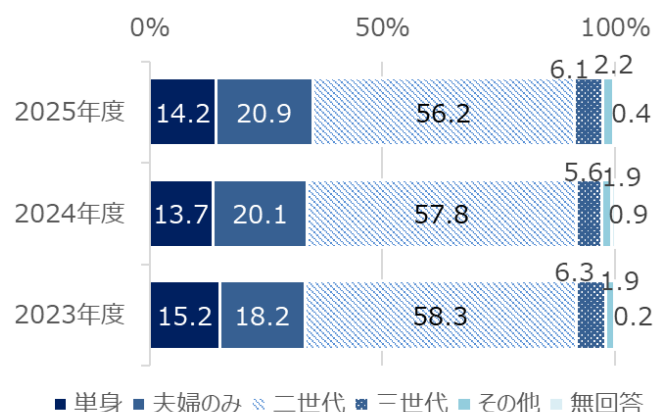


図 性・年代別構成比 (%)

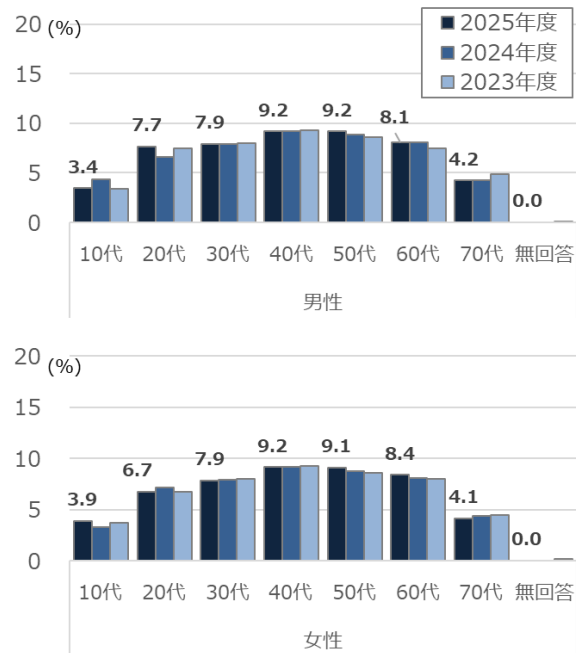


図 職業別構成比 (%)

